

第55回東海高等学校総合体育大会バスケットボール競技

平成20年6月22日(日) 会場:大垣市総合体育館

男子準決勝

	○		●	
藤枝明誠		29 -1st- 16		岐阜総合
		29 -2nd- 17		
114		26 -3rd- 30		103
(静岡1位)		30 -4th- 40		(岐阜1位)

両チームともハーフコートマンツーマンでスタート。藤枝明誠は序盤から速いオフェンスでリズムをつかみ、⑥藤井祐が次々にシュートを決める。岐阜総合は相手のディフェンスを攻めめぐみミスが多い。第1ピリオドは藤枝明誠が29-16とリードする。第2ピリオドに入っても藤枝明誠は⑨のリバウンドから④幸野、⑦増井、⑩藤井佑がコート狭しと走りまわり、さらに⑥藤井祐の個人技も効果的に決まり、前半で藤枝明誠が58-33と大きくリードする。岐阜総合はディフェンスをゾーンに切り替え、⑥伊藤のセンタープレー、⑦長尾のミドルシュートで対抗するが、ミスも多く追い上げきれない。

第3ピリオド、藤枝明誠は④幸野のミドルシュート、⑧尹のセンタープレー、⑫近藤の速攻などで着実に得点をあげる。岐阜総合も④田代の8本のジャンプシュートや⑬松井の2本の3点シュートで追撃体制をとり、互角の展開に持ち込む。第4ピリオド、藤枝明誠は点差が詰まりながらも終始冷静にゲーム運び終盤ファウルで得たフリースローを確実に決め、粘る相手を振り切って、114-103で勝利し、決勝へと進んだ。岐阜総合もオールコートゾーンプレスを仕掛けて相手のミスを誘い、このピリオドだけで、④田代が3本の3点シュートを含む11点、⑬松井が2本の3点シュートを含む8点、⑧寺井が6点など驚異的な追い上げをみせて、一時は7点差まで詰めたが、前半の失点が大きく追い切れなかった。

	○		●	
桜丘		19 -1st- 16		四日市工業
		16 -2nd- 12		
70		18 -3rd- 20		69
(愛知1位)		17 -4th- 21		(三重1位)

桜丘ハーフコート1-3-1ゾーン、四日市工業オールコートマンツーマンでスタート。桜丘は④野崎、⑫蔵地の速攻でリズムを作り、長身センター⑩マンタスがポストプレーでシュートを決めてリードする。四日市工業も途中から1-2-1-1ゾーンプレスを仕掛けて相手のミスを誘い、④岩田、⑥加藤の3点シュートで追い上げる。第1ピリオドは桜丘が19-16とリードする。第2ピリオドに入っても桜丘は⑩マンタス、⑫蔵地がシュートを決めて得点を伸ばせば、四日市工業もディフェンスをハーフコート3-2ゾーンに切り替えて、⑭近藤、⑨廣がシュートを決めて喰い下がる。前半は桜丘が35-28と7点リードで折り返す。

第3ピリオドは桜丘⑦浜野のフェイドアウェイシュート、⑥岩附のドライブが決まれば、四日市工業は④岩田の3点シュート、ドライブ、⑦川合の3点シュートと点を取り合い、互角の展開で最終ピリオドを迎える。第4ピリオド、四日市工業は④岩田がジャンプシュート、⑭近藤が3本の3点シュートを決めてついに逆転に成功するも、桜丘は⑩マンタスが8連続得点で気を叶き、緊迫したシーソーゲームとなる。残り7秒桜丘は1点ビハインドから逆転を狙った④野崎のシュートははずれたが、⑫蔵地がオフェンスリバウンドからシュートを決めて逆転し、熱戦に終止符を打った。スタートメンバーのどこからでもバランスよく点のとれる桜丘が、最後に勝利をつかんだ。四日市工業もディフェンスを何度も切り替え相手にリズムを与えなかったが、わずかの差で屈した。

男子決勝

	○	13	-1st-	23	●	
藤枝明誠		21	-2nd-	26		桜丘
	85	28	-3rd-	17	83	
(静岡1位)		23	-4th-	17		(愛知1位)

藤枝明誠はハーフコートマンツーマン、桜丘はハーフコート1-3-1ゾーンでスタートする。第1ピリオドは桜丘のペースで進み、④野崎の3点シュート、⑤水越、⑥岩附の速攻やアウトサイドシュートが決まり、第1ピリオドは桜丘が23-13とリードする。第2ピリオド桜丘は、⑧川熊のドライブ、リバウンドシュートや④野崎の1対1、⑦浜野のドライブでさらに得点を重ねる。藤枝明誠は⑥藤井祐の個人技を生かして得点し、⑤一木の3点シュートも決まるが、追い上げまではいかない。前半は桜丘が49-34とリードして折り返す。

第3ピリオドに入ると状況は一変し、藤枝明誠が2-3ゾーンに切り替えるとゾーンディフェンスが功を奏し、スティールから速攻が決まりました。さらに、このピリオドで④幸野が3本、⑩藤井祐が2本、⑥藤井祐が1本の3点シュートを決め、一気に4点差まで追い上げる。第4ピリオド、藤枝明誠が⑩藤井祐の3点シュートなどで逆転すると、桜丘も④野崎の3点シュートで再逆転と一進一退の攻防が続く。その後桜丘が相手のゾーンディフェンスを攻略し、10点差をつけ、勝負あったかに見えた。しかしここから藤枝明誠はディフェンスを激しくあたり、⑫近藤のシュートや⑥藤井祐の速攻でついに同点に追いつく。最期は残り5秒でフリースローを得た⑥藤井祐が冷静に2本とも決め、熱戦に終止符を打った。藤枝明誠はこの試合で35点をあげた⑥藤井祐の活躍で、今年の東海新人に続き、東海総体の優勝を飾った。桜丘もよく戦ったが、最後までリードを守りきれなかった。

男子3位決定戦

	○	28	-1st-	25	●	
岐阜総合学園		26	-2nd-	10		四日市工業
	94	26	-3rd-	22	75	
(岐阜1位)		14	-4th-	18		(三重1位)

岐阜総合学園はハーフコート3-2ゾーン、四日市工業はハーフコートマンツーマンでスタート。岐阜総合学園は、⑬松井の2本の3点シュート、⑦長尾のドライブ、ミドルシュートで得点し、四日市工業は速いパス回しから⑭近藤、⑥加藤が3点シュートを決め互角の戦いとなる。第1ピリオドは岐阜総合学園が28-25とリードする。第2ピリオドに入ると、岐阜総合学園は激しいディフェンスのプレッシャーからボールを奪い、⑦長尾、⑤岡島が速攻に走って次々に得点をあげる。四日市工業はゾーンプレスディフェンスがうまく機能せず、オフェンスでもシュートミスが続いた。前半は岐阜総合学園が54-35と大きくリードする。

第3ピリオドに入っても岐阜総合学園の勢いはおとろえず、⑧寺井、④田代の速攻、⑥伊藤のゴール下、⑦長尾のドライブと着々と加点していく。四日市工業も⑭近藤、⑨廣のシュートが決まるが、点差を詰めることができない。第4ピリオド、岐阜総合学園は落ち着いた試合運びで④田代、⑥伊藤が確実にシュートを決め、前半のリードを守りきって勝利し、東海総体第3位となった。四日市工業は準決勝の疲れからか、シュートがことごとくはずれ、追い上げられなかった。

女子準決勝

岐阜女子 (岐阜1位)	○	21	-1st-	26	● 常葉学園 (静岡1位)		
				19		-2nd-	14
	81			18		-3rd-	22
				23		-4th-	9
							71

粘り強いディフェンスが持ち味のチーム同士の対戦は両者ハーフコートマンツーマンで始まる。試合開始から岐阜女子が⑤上原のドライブと⑦汪のポストプレーを軸にして得点をあげれば、常葉学園は④風間の3点シュートや⑤西野のドライブを中心に攻め互角の展開となる。第1ピリオドは開始早々に⑪坂元の2本の3点シュートで先手をとった常葉学園が26-21と一歩リードすれば、第2ピリオドは④宮部、⑤上原の2本の3点シュートで盛り返した岐阜女子が追いつき、前半は40-40の同点となる。

第3ピリオドに入ると、常葉学園が⑤西野のこのピリオド9点をあげる活躍で62-58とリードする緊迫した展開が続く。しかし、第4ピリオドに入ると、岐阜女子がディフェンスのプレッシャーを一層強め、相手を5分間ノーゴールに押さえると、⑤上原、⑩岡田の3点シュートが決まり、さらに⑤上原が3本連続してドライブでシュートを決めて一気に突き放し、最後は岐阜女子が81-71と接戦を制して、決勝進出を決めた。岐阜女子は⑦汪がゲームを通してコンスタントにシュートを決めて41得点をあげる活躍をし、また全員が最後までよく走りきった。常葉学園も激しいディフェンスでよく喰いついたが、最後は力尽きた。

桜花学園 (愛知1位)	○	24	-1st-	14	● 星城 (愛知3位)		
				14		-2nd-	14
	72			21		-3rd-	16
				13		-4th-	8
							52

両チームともハーフコートマンツーマンでスタートする。桜花学園は⑧丹羽、⑮渡嘉敷の高さを生かしたインサイドプレーで次々と得点を重ねる。星城は⑭三浦の2本の3点シュートやドライブで対抗するが、相手にリバウンドを奪われ苦しい展開となる。第1ピリオドは桜花学園が24-14とリードする。第2ピリオドに入ると、桜花学園は相手の厳しいディフェンスに苦しみ、思うように得点を伸ばせない。対して星城は、⑤岡田、⑭三浦が的確なシュートを決め互角の展開に持ち込む。前半は桜花学園が38-28とリードを保ち後半を迎える。

第3ピリオド、桜花学園は苦しい中でも⑧丹羽、⑮渡嘉敷が粘り強くシュートを決め主導権を渡さない。星城は⑤岡田が3点シュート、⑭三浦がフリースローを確実に決め、一時は4点差まで詰め寄ったものの、その後再びリバウンドを奪われリードを広げられる。第4ピリオドも桜花学園はファウルで得たフリースローを確実に決め、粘る相手を突き放して、72-52で勝利し、決勝へと進んだ。星城も最後まで激しいディフェンスで粘り強く追い上げを図ったが、シュートが決まらなかった。

女子決勝

桜花学園 (愛知1位)	○	20	-1st-	14	●	岐阜女子 (岐阜1位)
		25	-2nd-	16		
	66	14	-3rd-	15	58	
		7	-4th-	13		
<p>両チームともハーフコートマンツーマンでスタート。桜花学園は、速いパスやドライブで崩しながら⑧丹羽、⑮渡嘉敷にボールを集め着実に得点していく。岐阜女子も⑤上原のドライブで切り崩し、⑦汪のゴール下や④宮部の3点シュートで得点する。第1ピリオドは桜花学園が20-14とリードする。第2ピリオド、桜花学園は⑧丹羽、⑮渡嘉敷の高さを生かし、さらに④後藤のシュートも決まってさらに点差を広げる。岐阜女子も⑤上原、⑨中村早が3点シュートを決めるが、相手の攻撃を止められない。前半は桜花学園が45-30と大きくリードする。</p> <p>第3ピリオドに入ると、岐阜女子がチームディフェンスでインサイドをしっかりと守り、⑤上原の3点シュートや⑪荒井のジャンプシュートで互角の戦いに持ち込む。桜花学園はインサイドのシュートを確実に決めリードを守る。第4ピリオド、桜花学園は途中4分間ノーゴールに押さえられるが、最後は冷静にパスを回して66-58で勝利し、今年の東海新人大会に続いて東海総体も制して、インターハイに向けて順調なすべり出しをみせた。岐阜女子も高さでは劣るものの厳しいディフェンスをみせて、⑪荒井、⑤上原がシュートを決めたが、最後はブロックショットにはばまれた。</p>						

女子3位決定戦

常葉学園 (静岡1位)	○	28	-1st-	14	●	星城 (愛知3位)
		17	-2nd-	20		
	99	27	-3rd-	15	64	
		27	-4th-	15		
<p>互いにマンツーマンディフェンスでスタートする。常葉学園は積極的にオフェンスリバウンドに飛び込み、⑤西野の鋭いドライブや⑦刘のインサイドプレーなどリズム良く得点を重ねる。星城は、シュートミスやターンオーバーが多く思うように得点が取れない。第1ピリオドは常葉学園が28-14とリードする。第2ピリオドに入ると常葉学園は相手のゾーンディフェンスに対してミスが出るが、⑤西野、⑪坂元の3点シュートが決まりリードを保つ。星城は2-3ゾーンディフェンスで守りをかため、⑫作田のインサイドプレー、⑬石黒の1対1で少しずつ差を詰めていく。前半は常葉学園が45-34とリードして折り返す。</p> <p>第3ピリオドに入ると、常葉学園は⑦刘のインサイド、⑤西野、④風間のドライブで次々にシュートを決めるのに対して、星城は相手の激しいディフェンスに得点が止まり、さらにリードを広げられる。第4ピリオド、常葉学園は④風間、⑤西野、⑪坂元が速攻に走ってシュートを決め、最後は99-64の大差をつけて、東海総体の第3位となった。星城は、足が止まってシュートが決まらなかった。</p>						